IAUD Newsletter vol.9 2016.4 No.1

IAUD Newsletter vol.9 第 1 号（2016 年 4 月号）

1.第 6 回国際 UD 会議 2016 プレイヴェント 講演概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2.UD 検定 初級講習会＆検定試験、中級事前講習会と検定試験開催のご案内・・・・・・・・・・・・ 8
3.IAUD 4 月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

基調講演 1:「日進市における UD 教育～3 年間の実践～」
宮道弘巳氏(日進市立竹の山小学校校長)

コンセプトは「つながる学校」

講演する宮道校長

竹の山小学校は開校から 3 年目を終えようとしている若い学校であり、日進北中学校と施設一体型校舎の小中併設校です。一貫校ではなく、2 つの学校がひとつの施設を共有しています。

設計時のコンセプトは「つながる学校」。小中がつながる、地域、家庭、他校、環境ともつながることを目標に学校建設を進めていきました。横の空間を有効利用して、広がりと繋がりを大切にした絆づくりがメインテーマであり、より UD が意識されている学校になっています。

小中交流の拠点である中庭

例えば、中庭は土地の高低差を活かした、小中交流の拠点になっています。

図書館は小中で共有しており、小学生にとってはより専門的な図鑑があり、中学生にとっては絵本もある小中ともに人気のある場所になっています。

さらに、合同避難訓練や体育祭、文化祭、児童生徒合同集会、委員会など、多くの学校行事も連携して実施しており、「つながる」学校が実践されています。

特別支援学級への建設中の配慮

建設現場中に手洗いの高さを確認

本校には市内唯一の肢体不自由児学級が設置されており、本校の児童生徒は肢体不自由児の子どもたちともふれあう機会が多い学校となっています。

校舎の設計段階から肢体不自由児学級に通うことになる保護者の方と打ち合わせを行い、細かい点に配慮した学級が設置されています。

障害は一律で分類するのも難しく、人数についても毎年変化しますので、本校では可動間仕切でクラス数を工夫できるようにしています。

また、多目的トイレも各階に車椅子対応のトイレ、各トイレ内に広めのトイレブースが設置されており、骨折やねんざなどで杖を利用する子どもたちの生活を助けています。

建設工事中の見学会では、手洗いなど試作品をつくり、子どもたちの意見を聞きながら高さを決定していきました。

また、肢体不自由児学級担任によるトイレ機器、位置、高さのチェックを行い、実際に取り付けられる機器を使って設計段階、施工段階でも検討を繰り返しました。

学校内の UD を体感し確認する UD 授業

学校調査で通路幅を確認

日進市内小学校全ての 4 年生の総合学習では、日進市社会福祉協議会と連携して「福祉実践教室」を行っており、車イス体験、盲導犬、手話点字について、講師を招いて子どもたちが体験する授業を行っています。

竹の山小学校では開校以来、さらに教育委員会施設担当者と校舎の設計事務所担当者による 90 分間の「UD 授業」を実践しています。

UD 授業の学習目標は、①学校建設について学ぶ②学校内の UD を体感し確認すると、いうことです。

子どもたちに学校が作られることになった経緯から伝えることにより、公共施設や学校の必要性を教え、公共施設だからこそ UD につながっていくことを教えていきます。

UD 授業ではまず、新しい学校を作る過程と理由を説明をします。そして、UD とは「みんなが使いやすい、わかりやすいモノつくり・工夫」と説明します

さらに、学校内で UD が配所されている箇所として、幅 80cm 以上（バリアフリー法で定められている車椅子の通路幅）の通路や引き戸の優位性、段差なし、多目的トイレ、エレベータの車椅子対応のボタン位置や点字表示、カラーUD に配慮した色など説明します。

その後、子どもたちは 80cm のヒモを持って通路幅の確認をしながら、校内の UD を見つけていき、学校の平面図が書かれた調査シートに記入してきます。

調査シートは設計事務所と教育委員会担当者が後でチェックし、「よい発見」というところに星印をつけたり、質問に回答をつけたりして認定証のシールを貼って返却します。

これらの活動は、「学校施設の教材化」として学校建築専門誌でも取り上げられました。

子どもたちに「きっかけ」を与える

UD 授業後のアンケートでは、「今まで UD はまったく気が付かなかったが、探してみるとすぐに見つかって驚いた」「UD は障害者に使いやすいように作っているものだと思っていたが、自分たちにも使いやすいことがわかった」などの意見がありました。UD の本質を子どもたちが理解してくれたといえます。

また、肢体不自由児学級の子どもたちと日常的に触れ合うことからも、UD 授業を通して学んだことをいつでも確認ができます。

UD の授業の最大の成果は、子どもたちに「きっかけ」を与えたことです。UD やバリアフリーといった言葉はよく耳にしますが、本校の子どもたちは実際に多くのことを校内で、五感を通して体感できるのです。

1 つの「きっかけ」から、学校周辺はどうかな、日進市は、愛知県は、日本は、そして世界は、、、、と関心が高まり、社会的事象をとらえる視野が広がっていくはずです。

また、開校から日進市行政の方々と協働して UD 授業を実施してきたことは、今の学校施設や周辺の環境を見直し、恵まれた環境の中で生活できていることを自覚し、そして多くの人々への感謝の思いを高める上で、とても良い機会になったと感じています。（了）

基調講演 2:「デザインの新しい時代」

木村一男(名古屋学芸大学メディア造形学部長)

デザインを街づくりに活かす

講演する木村学部長

いま、台北市は今年を「世界デザイン首都」として、活発に様々なデザイン啓蒙活動を展開しています。

この「世界デザイン首都」は 2008 年から世界デザイン機構(WDO)の提唱によって始められ、2008 年にはイタリア・トリノ、2010 年には韓国・ソウル、2012 年にはフィンランド・ヘルシンキ、2014 年南アフリカ・ケープ・タウンと 2 年ごとに開催しており、2018 年はメキシコ・シティで行われる予定です。

この「世界デザイン首都」の意図は、もう一度デザインの役割を考え、デザインを活かして、すべての市民にとって快適で素晴らしい都市をつくりあげていこう、というものです。これまで開催した都市では、デザインを市民のよりよい生活、環境、文化を創る重要な柱として、積極的に活用しています。

名古屋市で開催された世界デザイン博覧会

実は名古屋市でも、こうしたデザインを街づくりに活かしていこうという試みが、今から 27 年前に行われました。1989 年は市政 100 年で全国の大都市で様々なイベントが実施されましたが、名古屋市は「デザイン」をキーワードにした街づくりに挑みました。

1800 万人を集めた「世界デザイン博覧会」が開かれ、3000 人が参加した「世界デザイン会議」が催されました。また、同年 6 月には名古屋市会は「デザイン都市宣言」を決議し、これまで地味だといわれた名古屋の町並みがすっかり変わりました。

これからも、この宣言の趣旨を活かしたすばらしいデザイン都市づくりが継続されることを、大いに期待したいところです。

日本におけるデザイン

日本にデザインが本格的に導入されるようになったのは、終戦後の 1945 年以降のことです。それまで工業製品はほとんどが軍需品で、デザインが活用されていたのはわずかに繊維製品、広告や宣伝など商業美術の分野だけでした。

1951 年に松下電器(現パナソニック)の創業者松下幸之助がアメリカを視察し、デザインが大きな役割を果たしているのをみて、デザインの重要性を痛感し、羽田に帰るなり「これからはデザインやで」と言ったということはデザイン界の神話になっております。

翌年の 1952 年には松下電器に日本で初めてデザイン部門「製品意匠課」がたった 2 人の陣容でスタートしました。当時はまだデザインという言葉は一般的ではなく、図案、意匠、工芸設計といった言葉が使われていました。

それ以降、各社はこぞってデザイン部門を設け、現在、日本の企業のデザイン部門は、世界でも有数のスケールを持っています。

今やデザインなくしては、生活も、社会も、産業も成り立たないといっても過言ではありません。

広がるデザインの領域

現在では、さらにデザインの領域が広がり、これまでの「色・形・模様」といった世界から抜け出して、様々な新しい分野が生まれています。

「ユニヴァーサルデザイン」はその中でもっとも早く注目され取り上げられた分野で、他にも「エコデザイン」「サスティナブルデザイン」「インターフェースデザイン」、最近では銀行の支払機のように機器を使う時の状況をとらえ、いかに使いやすく満足を与えるかを考える「UX デザイン（ユーザー・エクスペリエンスデザイン）」や、ゲームやウエブサイトのように双方向のやり取りを考える「インタラクティブデザイン」なども登場しています。

新しいデザイン分野であっても、いつの間にか私たちの生活に中に入りこんでいるのです。

デザイン以外の世界でも応用する「デザイン・シンキング」

熱心に聴講する参加者

最近特に注目されているのが、デザイナーの発想や展開手法をデザイン以外の世界であるサーヴィスやビジネス、工学の世界でも活用させようという「デザイン・シンキング（デザイン思考）」です。

この手法によって、豊かなアイデアや発想を生み出す仕組みをつくったり、新しいシステムや運営方法などが生まれたりと、その成果はモノであるとは限りません。

この手法は、サンフランシスコのデザイン事務所 IDEO が展開していたデザイン開発のやり方をスタンフォード大学が注目し、デザイン以外の世界でも応用できないかと取り組んだのがきっかけといわれています。これまでのデザインの展開の進め方を整理し、理論づけを行ってこの手法が生まれました。

まず、人々のさりげない行動、モノと人間との関係、使われている状況、社会の動きなど、対象物をめぐる様々な事象に注目し、観察し調べます。そして、そこから得られたデータや素材などから、注目点、問題点を抽出し、解決への方向づけをし、発想の段階へ進みます。発想にはデザイナーばかりでなく、開発に関わるできるだけ多くの人々が参画することが求められます。出された発想は、できるだけ早く実物大モデルにして検討します。そこから次の課題や問題点を見つけ、こうした検討を重ねつつ課題をまとめあげていくのです。

こうして見ると、「デザイン・シンキング」は決して新しいものではありません。しかし、多くの観察、幅広い自由な議論、素早いモデル化、そして数多い検討を重ねて生み出されるものは、デザイン以外の世界にはとても新鮮で、また大きな効果をあげているのです。特に、幅広い観察と自由な議論が大切です。

カタチのない世界でのデザインの役割

このように、デザインはモノのデザインに関わることばかりでなく、人間の行動、生活、社会、都市、そしてそれを取り巻く文化や環境などあらゆる領域に広がってきております。

カタチのあるものばかりでなく、カタチのない世界でもデザインの役割、責務はとても大きいのです。今後もこうしたデザインの新しい世界に注目し、ご関心を持っていただければ幸いです。（了）

特別セッション:「名古屋観光ビジネスのデザイン提案～市民意識の変化～」

公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)中部ブロック

デザイン思考で名古屋を変える

JIDA 安倍武利氏

JIDA は 1952 年に創立した日本唯一のインダストリアルデザイナーの全国組織で、インダストリアルデザインの確立と向上、日本のデザイン界と産業や社会、文化の発展のために活動を進めております。

主な事業活動は、ICSID 会議、デザインの契約と報酬ガイドライン刊行、プロダクトデザイン検定、デザインミュージアムセレクション事業などがございます。

JIDA 中部ブロックでは 2015 年 8 月より、デザイン思考でビジネス、インフラ、プロダクトなどを提案し地域産業振興に貢献できることを研究するため、「名古屋観光ビジネスデザイン勉強会」を始めました。

2020 年オリンピック・パラリンピック開催を控え、全国的に外国人観光客をおもてなしし、地方創生につなげる動きが盛んになっています。

しかし、名古屋は観光コンテンツの効果的な案内や外国人客にも便利なインフラが整備できていないのでは、という危機感から、デザイナーの視点で外国人観光客や地元の人にも関心を持って貰える「観光の見せ方」や「システム構築」を目標に、これまで 11 回の勉強会を開催しました。

名古屋のおもてなしシステムを提案

まずは中部国際空港から観光地大須まで実地体験し、UD 的な視点から検証したところ、「外国人向け表示が小さく見にくい」「街中では交通案内以外は店名もメニューも英語表記が少ない」「観光地への道筋に期待感を盛り上げる演出がない」などの問題が上がりました。

そこで、私たちで何ができるのか討議した結果、「名古屋こそ素敵」と思って貰えるシステム「ちょこっとコンシェルジュ」の創設と運営を始めました。

名古屋を旅する人が困っている時に、さりげなく周りの人が近づいてそれを解決するお手伝いしてくれる、そんな誰もが気軽に楽しくおもてなしできることを可能にするのが「ちょこっとコンシェルジュ」です。

旅行者にとって一番大切なものは、地元の人との暖かいふれあいではないでしょうか。何でもない日常の親切が観光客にはとても嬉しい体験であり、旅の締めくくりに深く心に残り、日本って素敵と思って貰えるでしょう。

「ちょこっとコンシェルジュ」とは

「ちょこっとコンシェルジュ」は旅行者に親切な街名古屋として、市民が誇りを持って楽しみながら、しかも気軽に旅行者をおもてなしできるようにサポートをして行くシステムです。

これによって名古屋市民へコアブランドを高める情報を継続的に発信し、市民が誇りをもって活動できるようにします。その結果、旅行者にとっての利便性が向上しますし、市民のモチベーションもアップしていきます。

ICT サーヴィスについては、まずは旅行者への情報収集と提供を行うアプリは行政とタイアップして作成、管理運営します。旅行者へのおもてなしサーヴィスシステムは、観光サーヴィス業者の方や飲食・商業施設とタイアップして構築、管理運営していきます。

さらに、名古屋市民が気軽に参加できるよう、市民コンシェルジュシステムを立ち上げ運営します。コンシェルジュアプリをインストールした時点で、市民コンシェルジュとして認定しますので、アプリを活用して気軽に身近にいる旅人を助ける、もしくはおもてなししてもらいます。

市民コンシェルジュは地元の観光地の知識が増え、きちんと説明できるようになったら中級、それを英語でコミュニケーションできれば上級へと進級します。

また、旅行者や市民コンシェルジュへの情報提供に欠かせないホームページやツイッターの運営も行っていきます。また、民泊などのホームシェアリングで外国人観光客を受け入れている方の紹介や、ネットでコンタクトして外国人を案内したりしている人たちの例を紹介して、その楽しみ方などを紹介します。

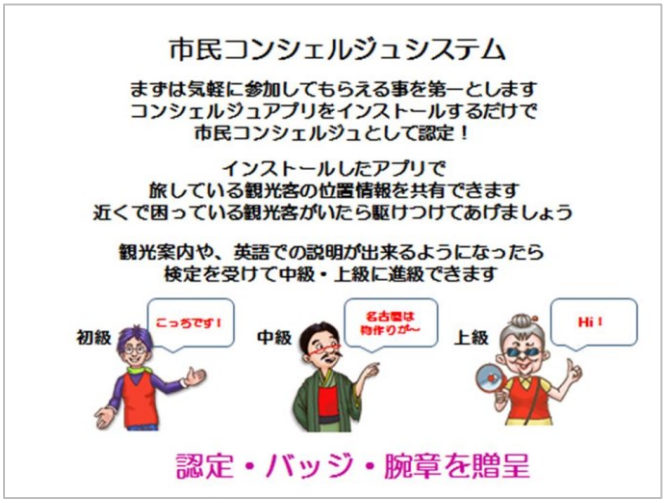
一方、名古屋を訪れる旅行者には、空港や駅、観光案内所でアプリのメリットを説明し、個人情報提供の了解を得た上でインストールしてもらいます。

この情報は市民コンシェルジュで共有します。旅行者はこのアプリ内でツィートしますと半径500m 以内にいるコンシェルジュに情報が伝わり、何で困っているかが分かったら、助けることが出来るコンシェルジュがそこへ向かいます。

アプリをインストールする際に自分の国籍や使える外国語を登録すれば、それに対応したサーヴィスが受けられます。困った時はこのアプリを通じて通訳サーヴィスを受けられますし、メニューの外国語化が難しい個人経営の店主さんへメニュー作成サーヴィスを提供します。

実際に「ちょこっとコンシェルジュ」を利用して、名古屋の西エリアを散策しました。私達は大きな投資や人手を要することなくこうした取り組みを実現できるのではないかと考えています。

「ちょこっとコンシェルジュ」によって旅行者の満足感がえられ、名古屋を何回も訪れるリピーターの方が増える、そしてこのアプリ自体が名古屋に来る目的になればと願っています。



「ちょこっとコンシェルジュ」事業化へ

今後はコンシェルジュ組織の具体化に向けてさらに研究を行っていきます。また、事業運営も総合的な主体として「名古屋観光ビジネスデザイン研究会」という組織が立ち上がり、実際の企画・運営は「クリエィティブビジネススペース コード」「日本インダストリアルデザイナー協会中部ブロック」との共同事業となります。

本活動は市民の皆様、企業、行政、デザイン各機関のご協力さえあれば大きな投資や組織がなくても十分実現が可能だと考えております。我こそと思われる方、是非御参画ください。

お問い合わせは 052-212-5817 へお願いします。（了）

※JIDA 中部ブロック詳細はこちらをご覧ください。http://www.chubu.jida.or.jp/

オリンピック・パラリンピックのヴォランティアにも役立つ
第 12 回初級講習会＆検定試験及び第 6 回中級事前講習会、検定試験のご案内

第 12 回 UD 検定・初級　講習会＆検定試験

日時：5 月 12 日（木）9:00～12:00
会場：NEC 本社ビル（東京・芝）
講師：古瀬 敏氏（静岡文化芸術大学名誉教授）
講習会（2 時間）と UD 検定・初級試験（1 時間・50 問）のセット形式で実施します。
合格後に「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。
※詳細は以下のリンクを御参照ください。
http://www.iaud.net/event/archives/1604/01-100000.php

「第 1 回 UD 検定・中級」試験会場の様子（東京・芝）

UD 検定・中級検定試験　事前講習会

日時：4 月 27 日（水）9:30～17:30
会場：NEC 本社ビル（東京・芝）
講師：古瀬 敏氏（静岡文化芸術大学名誉教授）
　　和田 紀彦氏（IAUD 検定委員）
UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、UD」の検定ポイント解説を中心に、UD に関するさまざまな知識や情報を講習します。

第 6 回 UD 検定・中級　検定試験

日時：5 月 12 日（木）9:30～11:30
会場：NEC 本社ビル（東京・芝）
試験方式：2 時間・140 問 ペーパーテスト。問題は公式テキストブックに準拠して出題します。
合格後は「UD 検定・中級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。
※詳細は以下のリンクを御参照ください。
http://www.iaud.net/event/archives/1604/01-000000.php

2016 年 4 月の予定

4 月 18 日現在

月	火	水	木	金	土	日
				1 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	2	3
4	5	6	7 15:00～ 情報交流センター @IAUD サロン	8	9	10
11 16:00～ メディア UDPJ @CUDO	12	13	14 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	15	16	17
18	19 10:00～ 研究部会 @IAUD サロン	20 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	21	22 13:00～ 手話用語 SWG @IAUD サロン 13:00～ 標準化研究 @新宿ミライナタワー	23	24
25	26	27 9:30～ UD 検定中級事前講習会 @NEC 本社 14:00～ ワークスタイルコレクティブハウス見学 @聖蹟桜ケ丘	28 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	29 みどりの日	30	

次号は 5 月上旬発行予定
特集: アウォード 2015 受賞内容紹介④ほか

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9　トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846　FAX：03-5541-5847　e-mail：info@iaud.net